

ガンコ親父の

松次郎はどんなに暑くても外出するのが好きだった。「あなた、日差しがキツイから帽子をかぶって行ったら」と妻の貴代は気遣った。「そうだよ。オヤジの場合、太陽の光がもろに頭皮に当たるから、かなりやばいよな」と息子の学も同調した。しかし、松次郎は素直に従えない性格だ。息子から注意を促されるなんて、とんでもない。帽子を受け取ることもなく、スタコラと出かけて行った。

どこまでも広がる青い海が見える。日曜日の午後、松次郎は一人で海水浴場に来ていた。松次郎は奄美の海が大好きだった。島の超特急と言われたほどの快(怪)速ランナーだったが、もちろん泳ぐのも得意だったのだ。一緒に泳げば、誰にも負けなかつたし、若い頃は地球の果てまで泳げる気がしていた。なので、チーム力を競う舟漕ぎ競争よりも、どちらかといえば個人の能力が目立つ **奄美黒糖焼酎** 競泳の方が好きだった。

やはり日差しは強かった。ジリジリと頭皮も焼かれる。松次郎はシャツを脱ぎ捨て、海パン姿になった。自意識過剰気味に、ボディビルダーのポーズを取ってみた。残念ながら、ポツコリ出た腹の影はこっけいだった。悔しくて砂にできた自分の影を蹴つたら、バランスを失って転んだ。派手に転んだので、「おっちゃん、大丈夫？」と大阪弁の子供に心配された。それを見ていたその母親はいきなり心配そうに子供の手を取って、松次郎から離れていった。松次郎は怪しいオヤジに見えたのだ。

松次郎は気を取り直して海に入った。暑くなっていた肌が冷やされる。気持ち良く沖に向かって泳ぎ始めると、松次郎の姿はもう六十代の人間のものではなかった。泳ぎが得意な生き物になっていた。調子に乗って仰向けで浮かびながら、シンクロナイズドダイビングのように足を垂直に突き出した。その瞬間、脚の筋肉がピキーンと割ってしまった。「いてて」と松次郎は短い叫び声をあげて、初心者のように手をバタバタさせながら沈んでいった。

こんなことは初めてだった。気が動転している。ゴボっと海水を飲んでしまったその瞬間、松次郎に手が差しのべられた。「おっちゃん、大丈夫？」なんて子供の手だった。

大阪から旅行に来ていた母子に助けられた松次郎はバツが悪かったが、大人を助ける子供の勇氣に元気をもらうことができた。若い頃、松次郎を育ててくれたこのキレイな海が、今度は勇氣ある行動を子供に教えていたのだ。キレイな海はヒーローを育ててくれるゆりかごなのだそう。学から聞いた話では、創業百周年記念の「しまっちゅ伝蔵」がキレイな海の底で今、揺られながら眠っているらしい。海のゆりかごは太古の時代に命を育み、現代では「勇氣」も「味」も育んでくれる。さっと、その味もヒーローになるに違いない。楽しみだ。

松次郎は痛む脚に顔をしかめながら家路についた。しかし、その足取りはなぜか軽かった。



しまっちゅ
伝蔵
でん ぞう

常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎
喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのkokoroのある味と香りです。



創業百周年記念「しまっちゅ伝蔵」

25度
好評発売中

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造(株)はこの活動を応援しています。



喜界町 鹿児島県

喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
TEL 0997(65)0251

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。

キレイな海に乾杯!!